

# チームビルディング研修

～プロジェクト活動をよりよくするために～

11月14日(土)、421Lab. 主催のチームビルディング研修が行われました。この研修は、421Lab. に所属する7つのプロジェクトを対象とし、チームビルディングや目標の統合、またコミュニケーションの取り方やプロジェクトを円滑に進める上で必要な知識などを学ぶものです。

外部講師をお招きし、プロジェクトごとで交流分析や積極的傾聴などのグループワークを主に行いました。メンバー間での話し合いの時間が随所で設けられていて、結果だけではなく、そのプロセスが大切だということを学ぶことができました。

また、「エゴグラム」という性格診断を通して自我状態を把握することで、自分の自我状態をコントロールする方法や、将来像に近づくためのアプローチの仕方などを学びました。

研修の参加者が今回学んだことを生かすことで、各プロジェクトの活動がより活発になり、421Lab. もさらに活性化していけばいいと思います。(記者：山口・藤野)



## Information

1日単位からの地域活動を紹介するコーナーです。興味を持たれた方は421Lab. までお越しください!



### Pi-Pi おばさんの おもしろあそび

【活動日時】平成28年1月16日(土) 11:00~15:00  
【申込メ切】12月25日(金)  
【活動内容】

門司港にある海峡ドラマシップにて、クイズを交えた室内オリエンテーリングがあります。参加者と一緒にイベントに参加してイベントを盛り上げましょう。

### YMCA ウィンタースクール ボランティアリーダー

【活動日時】12月24日(木)~28日(月)  
【申込メ切】12月15日(火)  
【活動内容】

子どもたちと一緒にものづくりやケーキづくり、お正月遊びをします。日帰りのプログラムなので1日からの参加も可能です。子どもが好きな方にオススメです。

## 編集後記

Lab. Times 12月号を手にとっていただきありがとうございます。本号ではTFT×Kitagataの活動、東日本震災関連PJの活動、そして421Lab. に携わる人たちで行った勉強会を取り上げさせていただきました。今回取り上げさせていただいたことは、「もっと皆さんに知られるべき!」という完全な私の主観からこの内容に決定しました。本号を通してぜひ、皆さんに活動を知っていただければと思います。

本号を発行するにあたってご協力頂いた皆さん、本当にありがとうございました。



北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)  
〒802-8577  
北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)  
Open / 10:00-18:00 (月~金)  
[Tel] 093-964-4092 [Fax] 093-964-4088  
[Mail] info421@kitakyu-u.ac.jp  
[Web & Facebook & Twitter]

421Lab. 検索

《編集者：宮本・吉竹・野口・佐藤・藤野・山口》  
Lab. Times 03号 2015年12月4日発行



編集長：宮本 真臣

### 《プロフィール》

地域創生学群3年  
今年度より、421Lab. に所属。  
弓道部主将を務める。趣味は弓道。好きなものは弓道。弓は友達であり恋人。好きな言葉は「行雲流水即弓道」。生まれ変わったら弓になりたい。

2015 December



『Lab. Times』は北九州市立大学 地域共生教育センター 421Lab. が発行している広報紙です。



### ～TFTフェア開催!!～

12月・1月に TFT フェアと題して、毎月下旬の月～金曜日に TFT メニューが生協食堂で導入されます。月～水と木・金で、それぞれ丼ものや主菜などから2つの対象メニューを提供します。ぜひ皆さんも TFT メニューをご賞味下さい。

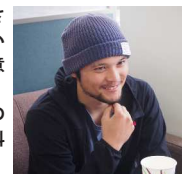
## TABLE FOR TWO × Kitagata

あなたの一食がアフリカ・アジアの子どもたちの一食に

### 『今から僕はカーリーナとランチだ』

食堂に貼られているポスターをみなさん一度は目にしたことがあると思いますが、このポスターの表している意味を知っていますか?

今回は、TABLE FOR TWO×Kitagataのリーダー中内理登さん(法学部政策科学科・4年)にお話を伺いました。



### ～20円がアフリカ・アジアの子どもたちの一食に～

TABLE FOR TWO (以下、TFT) とは、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消を目指すNPO法人の取り組みです。食堂等で売られている対象の食べ物を購入することで、その購入金額の20円が寄付金となり、途上国の子どもたちの学校給食1食分になります。この日本発の社会貢献運動は国内のみならず、世界中の高校・大学・企業の食堂で導入されています。

現在、世界では約10億人が飢餓や栄養失調で苦しんでいる一方、約20億人が食べ過ぎで肥満状態にあるとされています。子どもたちの給食を支援することは、現地の貧困問題を緩和するだけでなく、子どもたちが学校に行く動機付けにもなり、学向上にも繋がっています。

### ～北方キャンパスから3042食が途上国の子どもたちへ～

北方キャンパスで TFT の活動が始まったのは2014年4月。リーダーを含む3名の「貧困問題について何かできないだろうか」という思いから、この活動の立ち上げに至りました。

当時、ひびきのキャンパスの生協食堂で導入されていたため、そこからノウハウを教わりながら2014年10月から北方キャンパスでも TFT プログラムを導入しました。

2014年10月以降、主にお客さんの多い日に TFT メニューを導入してきました。2015年11月までに、北方キャンパスの生協食堂からは3042食分の寄付が集まりました。

### ～食べる国際貢献をもっと広めるために～

TFT×Kitagata が現在行っている主な活動は広報です。現在、ポスターや三角ポップの他、Facebook など SNS を通して広報活動を行っています。今後はより多くの北九大生や教職員の方々に TFT のことを知ってもらうために、新たなポスターの製作など、さらに広報活動を強化したいと思っています。

また、生協食堂の方々の協力のもと、北九大生を対象に食に対する意識調査を行いました。そのデータに基づき、途上国の子どもたちだけでなく私たちにもメリットのある、TFT×Kitagata オリジナルのヘルシーなメニューを作ろうと考えています。

これらの他にも小学校へのお出前授業や、学内で行われている活動とのコラボなど、活動の輪を広げていきたいと思っています。

### ～最後に～

まだまだメンバーを募集しています!少しでも興味のある方がいたら、毎週火曜日1限にホワイトハウスで行っているミーティングに一度お越しください!

(新ポスターは、みなさんもおそらく知っている、あの方にもご協力いただきました!) (取材：吉竹・野口)

### TFT×Kitagataの最新情報を配信中!





**東**日本大震災関連プロジェクトは、2011年3月11日に起こった東日本大震災の惨状をメディアで目の当たりにした学生が「何かできることはないか」という思いのもと、2011年4月21日に発足しました。現在は13人で活動しており、半年に1度南三陸町へ派遣活動を行っています。震災発生当初の、ハード面への支援だけでなく、震災発生から4年が経過した現在では、人の気持ちに寄り添ったソフト面への支援が必要とされています。それに伴い、より細かなニーズに対応できるよう、私たちの活動も変化し続けています。

# 東日本大震災関連プロジェクト

東日本大震災発生から5年・・・残念ながら私たちの中で震災の記憶は薄れつつあると思いますが、これまで4年半に渡って関わってこられたプロジェクトの皆さんはどのように考えているのでしょうか？プロジェクトリーダーの矢ヶ井さんと筆頭に大庭さん・坂本さん・有馬さんにお話を伺いました。



## Q. 東日本大震災関連プロジェクトの活動について教えてください！

**矢ヶ井さん**：多くの活動を行ってきましたが、大まかに言うと震災発生～2年目までは瓦礫撤去などのいわゆるハード面での活動を行い、2～4年目は仮設住宅に住まわれている方の心のケアが必要だということと傾聴ボランティアなどのソフト面での活動を行うようになりまして。今では、仮設住宅から出てお仕事を再開されている方も多くいらっしゃるの、そうした方を経済的に支援するような活動も行っています。



**大庭さん**：現地でお仕事を再開しようとしていらっしゃる方々の力になれないかと思い、お話を聴いたりお手伝いをしたりしています。例えば、東北の海藻などを使った石鹸でビジネスをされている厨（くりや）さんという方がいらっしゃるのですが、そのような面白いことをされている方々の活動を北九州からどんな情報発信していきたいと思っています。なので、生産者や仕事を再開しようとしている方へのアプローチなどが主な活動です。

**坂本さん**：私は現在1年生で、今年の8月に初めて被災地に行ったのですが、そのときに「おちゃっこ企画」というものを行いました。「おちゃっこ」というのは、高齢者の人たちが気軽に来て会話などをしながらみんなで楽しむというオープンな場のことです。この企画を通していろんな方のお話を聴けたのですが、そのお話を通して多くのことに気付くことができました。実際に被災地に行かないとわからないことがたくさんあったので、直接会って話すことができ本当に良かったし、聴かせていただけた本当にありがたいと感じました。

**有馬さん**：「おちゃっこ企画」では、1軒1軒お宅をまわってチラシを配り、顔合わせをしました。そこでは受け入れてくださる方もいらっしゃるのですが、消極的な方もおられます。だから、私たちの活動が被災地の方々のニーズに応えられているのか、とても心配だったのですが、当日は多くの方に来ていただき、本当に良かったです。

## Q. 今年力を入れたことや今後力を入れたいことを教えてください！

**矢ヶ井さん**：現在、だんだんと向こうで出来ることが限られてきています。そこで北九州にいても出来ることを考えようというのが今年力を入れたところです。例えば東北の海産物を使った「絆焼うどん」を販売したり、青嵐祭の出店などを通じて、北九州の方に東北の良さを伝えるといったことを行いました。活動を行っていく中で、私たちの活動の意図を解ってくれる方が増えているのが良かったです。

**大庭さん**：今年の秋から、航空会社のスターフライヤーの機内誌の1ページを、私たちが東北のことを発信する場としていただいています。第1回目は厨さんのビジネスを取り上げました。スターフライヤーはビジネスマンがよく利用されるので、機内誌を読んでいる途中に目に留まって「この人すごいな」と感じてもらえればと思います。また、記事を読んでいた皆さんに厨さんのパワーが伝わればいいなと思っています。今後いろんな人を紹介していきたいです。

**坂本さん**：北九州にいる人は、東北のことが気になったとしても自分からわざわざ調べたり聞いたりすることは少ないと思います。しかし、私たちが話すとき真剣に聴いてくださる方はたくさんいるので、現地に行って自分の目で見て、いろんなことを体験してきた私たちが積極的に話していきたいと思っています。また、大手のメディアが流さない情報なども発信したいと考えています。

**有馬さん**：私が派遣に行く前は、震災後の東北がどんな状況なのか、ましてや復興に向けてどんなボランティアが行われているのかをほとんど知りませんでした。現地でも支援活動をしてきた経験がある同期がいる中で、何も知らない私が力をいれたことは「知る」ということです。まず、3月11日にどこがどのように、どんな規模で被害を受けたのかを知らない支援の活動はできないと思って自分なりに頑張りました。

## Q. 皆さんが東北に行って感じた東北の変化を教えてください！

**矢ヶ井さん**：被災地の風景などの見た目の変化もありましたが、私は人の動きや心の変化が一番感じました。特に被災地の方と何回も話をしていくうちに、段々心を開いてくれていることを感じたときそう思いました。東北全体で頑張ろうという中にもそれぞれの経済力で復興のスピードが違うといった現実的な話や普段してもらえなかった話を聴かせてもらえたりしてとても嬉しかったです。

**大庭さん**：いま東北は盛り土のために周りの山が削られているのですが、時間が経つにつれて以前あった山が無くなったりすることがあります。久しぶりに訪れた場所を見て驚いたこともありました。

現地の人の空気は明るくなっていると感じます。町によってもちろん違うのですが、復興商店街などは活気づいてきているので復興に向かっていてのではないかと思います。

**坂本さん**：私は現地で「語り部」という、当時の話をしてくださる方にお話を聴いたり、手作りの映像などを見せていただいたのですが、メディアで見るものとは全く違い、衝撃的で涙が溢れてきたことを覚えています。でも当時は、震災で荒れた町などを見ればすぐに震災の恐ろしさや教訓が思い出せていたのですが、いま復興が進んでいる姿を見ると、当時のことを強く思い出せなくなってきています。今は瓦礫などが片付いてきている分、一番大事な思いが隠れて見えなくなっていると思います。

**有馬さん**：私が特に興味を持ったのは、地域ごとにまちづくりが異なっている点です。例えば南三陸町は盛り土をしていて町全体の海拔を底上げしようとしています。一方、女川という町は居住する場所は高い場所に、商業施設などは震災前に建物があった場所に建てるという、減災の方針でまちづくりをしていました。しかし復興が進んでいるとはいえ、仮設住宅に住まれている方もいらっしゃいますし、震災・津波の爪痕が残る場所もあります。だから、まだ自分たちが出来ることはたくさんあると思います。

# 目に見える復興が進む中で

# 目に見えない想いを汲み取る

## Q. 活動を通して良かったことや苦労したこと、今後の課題などを教えてください！

ショックを受けましたが、現地に行くことはできませんでした。私はまだ被災地を1回しか訪問していないので経験は浅いのですが、実際に現場を訪れてメディアでは知ることが出来ない事実を見ることができたので、本当に行き良かったと思います。



**坂本さん**：私が1年生でこのプロジェクトに入ったときは、ワークショップや派遣など、すでにやる事が決まっている状態だったので、「これをしている自分は復興支援をしている」という、まさに「やって満足」のような感じでした。しかし、実際に被災地に行って現場を目の当たりにすると、自分が何もしなくなってないのではないかと考えてしまい、悩みました。今は私たちがプロジェクトを通じて見てきたことを多くの人に伝えなければいけないと思っています。自己満足で終わるのではなく、小さい力だとしても頑張って広めていきたいです。

**矢ヶ井さん**：苦労したことは、せっかく悩みを打ち明けてくれたのに、そのことについて自分たちの力では解決することが出来なかったことです。今では私たちに話してもらおうことで仮設住宅の方々の気が少しでも楽になると思っているのでも前ほど落ち込んではいませんが、当時はとても悔しくて落ち込んでいました。

震災から5年で仮設住宅を出なければならず、もうその5年が経とうとしています。周りの状況が一気に変わっていくことで、私たちは何を行っていくべきなのか、様々なニーズがある中でどこに絞っていくのが今後の課題です。

**大庭さん**：自分たちが現地に行ってお話を聴くときに、どこまで聴いて良いのかということには戸惑うこともあります。当時の話は聞きたいのですが、どこから踏みこむべきでないのが悩みます。だから私は、直接は聴かずに仲良くなって話してくれるまで待つことを心がけています。

課題としてはまず発信の仕方があります。自分たちがしてきたことを終わらせてはいけないし、せっかく歴代の先輩が築き上げてくれたものも発信しないもったいないと思います。あと、ずっと考えているのが、「復興とは何?」「どこまでいけば復興?」ということです。「被災前の現地に戻りたい?それ以上?はたまたまそこまでは求めていない?」「自分たちができる支援って何?」など、考えれば考えるほど深くはなりますが、必ず考えなければならぬことだと思っています。

(取材：宮本・佐藤)



矢ヶ井那津  
地域創生学群  
3年  
好きなことは音楽を聞くこと。



大庭亜美  
地域創生学群  
2年  
好きなスポーツは陸上。



坂本あゆ木  
地域創生学群  
1年  
特技は絵を描くことと、歌うこと。



有馬夕乃  
地域創生学群  
1年  
好きなものは甘いものと、動物。

**有馬さん**：震災が起こったのは私が中学2年生のときで、学校から帰ってきてニュースを見たときすごく